

## 第2 教育研究団体の意見・評価

### ○ 日本独文学会 ドイツ語教育部会

(代表者 草本 晶 会員数 約500人)

T E L 03-5950-1147

#### 1 前 文

本評価書では、共通テストの「ドイツ語」の問題が、高等学校外国語教育の目標に沿う形で作成されているかどうか、また、大学教育を受けるにふさわしい能力を判断する設問になっているかを総合的に評価した結果を報告する。

令和6年度共通テスト(本試験)におけるドイツ語受験者は101人であった。前年度(令和5年度)では受験者数が82人と大幅に減少したが、今年度は令和4年度の水準(108人)に戻って100人台を回復している。これは高等学校等におけるドイツ語教育関係者の絶え間ない努力のたま物であろう。

平均点は130.95点(100点満点換算値:65.47点)であった。最高点は200点(同:100点)、最低点は41点(同:20点)であった。令和5年度の平均点は123.80点(同:61.90点)であり、一般的な試験の特徴(一般に、平均点が65~70点くらいになるように問題作成されることが多い)を保持できている。標準偏差は46.84(同:23.42)であり、これは得点分布の山が84.11点~177.79点(同:42.05点~88.89点)の間に集まっていることを示すが、この得点分布も想定しうる分布であると言える。

問題形式は、共通テスト初年度の令和3年度に大きく変わり、それ以降今年度まで形式の大きな変更はなく、実際のコミュニケーションで必要とされる知識やスキルが問われるような工夫がなされていると評価できる。

#### 2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

大問の構成(大問1~7)、出題形式、総設問数(全51問)、大問ごとの配点(大問1:21点、大問2:24点、大問3:20点、大問4:40点、大問5:30点、大問6:30点、大問7:35点)とも、昨年度(令和5年度)と変更はなかった。大問4では設問数が7となり、昨年度から1つ少なくなっているが、本文の内容に合致するものを2つ選択させる問題となっているため、全体の設問数や配点には影響しない。長文のテーマは、日本人学生が留学時代の友人と動物園を見学する会話(大問4)、ギムナジウム(高等学校)卒業後の進路についての会話(大問5)、時刻表を全て記憶したある男の話(大問6)、13歳の少年が、ミツバチを保護するために花の種をカプセルに入れて販売していることを取り上げた新聞記事(大問7)であり、概して高校生・大学生に身近に感じられるテーマが選択されている。扱われているテキストの種類としては、昨年度は大問6で交換留学レポートが取り上げられたが、今年度は令和4年度と同様に文学作品からの出題であった。全体として、会話、物語、新聞記事が出題され、様々な文体の文章を学んでもらいたいという出題者の意図がうかがえる。

ドイツ語総語数(のべ語数)は2,231、総語彙数(単一語の初出回数)は608であった。今年度の大問6と大問7では両方とも問題文が1ページに収まる分量になっているが、大問4と大問5での問題文の量が増えたため、総語数は昨年度(2,215)と同程度となっている。総語彙数に関しては、昨年度(684)より抑制されている印象を受ける。令和4年度は584と語彙数は少なかったが、令和5年度で684と大幅に増加している。これらと比較すると、今回の令和6年度の総語彙数は適切だと評価することができる。

本評価で使用している過去の出題語彙データベースに蓄積している語、一般的独和辞典（見出し語6～8万語程度）で基礎語彙として扱われている語、基礎語彙を組み合わせた合成語、固有名詞、国際語、注付きの語、派生語のうち形態素の意味からその意味が容易に想像できる語などを除くと、やや難度が高いと思われる語の数は13語であった（★）。

★ aufschlagen, bedrohen, befüllen, betreiben, bewahren, faszinieren, Hai, Hebel, Kaugummi, Mütze, Samen, spenden, vorig

上記13語を難語に挙げたものの、これらの語は一般的な独和辞典において見出し語として挙げられている。これらのうちのほとんどが大問7に偏った印象は否めないが、全体的にイラストや文脈から意味を推測できる工夫が行われていた。また、一度しか現れない難語についても、特に各々の解答に影響を及ぼすものではないと判断できる。

以下、大問ごとの評価を記す。

第1問 設問数（7）、頁数（2）、配点（21）は昨年度と同様で、設問も発音に関する小問が3題、文法3題、語彙の分類に関するものが1題と、昨年と同じ構成である。重要な基本事項の理解度を確認する上で総じて良く練られた問題である。

問1 母音の長短を問う問題である。(1) 強勢のある母音が長母音になる、ただし、(2) 強勢があっても子音連鎖の前では短母音になる、という知識を問うている基本的な問いであると評価できる。(1)と(2)のルールに照らして、①、②、④を検討することができる。ところが、③の下線部は、(1)(2)のルールによらず、前置詞 in がもともと短母音であるという、個癖的な事実によっており、他の3つの選択肢とは別の知識を問うものになっており、やや異質であると言わざるを得ない。もう1つは、そもそも強勢がないため短母音であるような語（例えば、Beamtin など）を使った方が良かったのではないか。

問2 子音 ch の発音を問う問題である。この ch はドイツ語においては頻出の音であるため、単一の文であっても、反復して出現する（口に出すことになる）子音である。実際の文における特定の音の表れをリアルに示している点で、評価できる。難度も適切である。

問3 国名を表す名詞とそれに対応する形容詞のペアにおいて、強勢の位置が変わらないものを選ばせる問題である。④の Türkei の強勢位置（-ei）は知っておいてほしい知識であり、適切な問題である。

問4 選択肢にある動詞の語幹に共通する短母音 a のうち、3人称単数の主語の場合に母音交替を起こすものを選ばせる、すなわち、いわゆる不規則動詞についての知識を問う問題である。適切な問題であると言える。

問5 選択肢にある動詞の語幹全てに共通の二重母音 ie のうち、過去形にした場合に母音交替が生じるものを選ばせる問題である。選択肢の動詞はいずれも基本語彙であり、難度は高くない。なお、②の probieren だけ外来語由来（いわゆる-ieren 型動詞）である。この-ieren が常に母音交替を起こさないということも知っておいてほしい、という出題のメッセージであれば評価できる。

問6 名詞を複数形にしたときに、例と同じ語尾（-e）がつくものを選ばせる問題である。Fahrrad とその複数形の Fahrräder を知っていれば難しくない。選択肢はどれも総じて基本語彙であり、適切な問題である。

問7 選択肢として挙げられた名詞4つのうち3つは、A, B, C のいずれかのグループの意味分類に属する。いずれのグループにも属さない1つを選ぶ問題である。正答となる（どのグループに属さない）名詞 Mieter の難度はやや高いが、出題に使用された他の名詞は比較的平易で、正答を導き出しやすい。基本的語彙知識の蓄積を問う標準的な問題である。

第2問 設問数(8), 頁数(2), 配点(24), 出題形式のいずれも昨年と同様である。基本的な文法や語彙の知識を問うパートである。全体として適切な難度であると評価する。

問1 動詞*gefallen*と結び付く, 適切な所有冠詞を選択させる問題である。3格目的語を必要とすることに気付けば, 正解を選ぶことができる。出題のねらいも明確である。

問2 動詞*ärgern*が4格目的語を必要とするということに気が付かなければならない。4格目的語は選択肢の中で1つしかないが, 文意を理解しなければ, 再帰代名詞*sich*を選択してしまう受験者がいるかもしれない。良問である。

問3 適切な疑問詞を選択させる問題である。*schicken*が3格目的語を必要とすることを理解していれば, 正解を選ぶことはできる。基本的な知識を問う問題である。

問4 *von jm. abhängig sein*の知識を問うている。出題のねらいも明確である。

問5 *sein+zu*不定詞の受動表現が理解できているかを問う問題である。やや難度は高い。

問6 受動文は助動詞*werden+過去分詞*で表されることを理解していれば, 正解を選ぶことができる。基本的な知識を問う問題である。

問7 形容詞の名詞化に関する, 日常で使用頻度の高い表現を問う良問である。出題のねらいも明確である。

問8 熟語的に使われる比較表現の*viel+比較級*を理解できていれば解ける問題である。英語に精通している受験者は*mehr*を選択してしまうかもしれない。良問である。

第3問 設問数(4), 頁数(2), 配点(20)及び, 6つの選択肢から5つを選び空欄を補う出題形式も昨年と同様である。語彙の選択と難度は適切である。

問1 *anrufen*の目的語が3格*ihm*ではなく4格*ihn*であることに気が付くかがポイントとなる。また, 従属接続詞*damit*が導く副文内の語順の理解も問われているが, 昨年とは異なり主文が先行している。

問2 *sich freuen*の前置詞として*über*と*auf*を適切に使い分けられるかが問われている。*sich freuen+前置詞*の理解を問う基本的な問題である。

問3 「その模様は」が⑥*Situation*ではなく文中の関係代名詞*die*であることに気付く必要があり, これによって*wurde*が後置されると判断できるかどうかを試されている。やや難度が高い。

問4 23には③*man*あるいは④*wir*が入るが, どちらが適切かは対応する動詞①*sollte*から判断する必要があり, 難度はやや高い。

第4問 昨年同様に連続性のある会話のまとまりの解釈を問う形式である。頁数(6), 配点(40)は変わらないが, 設問数が8から7へと減った。もっとも, 問7は解答を2つ選択する形式のため, 解答数全体については大きな変更はない。題材は, 休暇でドイツに来た日本人が留学時代の友人2人と一緒に動物園(Tierpark)へ行くというものである。全体を通して対話のみが扱われているが, 動物園の案内図も示されている。テーマが動物園ということで様々な動物名称等が登場するが, そのほとんどが国際語の観点から推測でき, 案内図においても動物の絵とともに明示されているため, 全体の解釈には影響ないと思われる。また, 動物園は誰もが一度は訪れたことがあると考えられ, 日本の若者にとっても比較的身近な題材と言える。なお, 選択肢が日本語で書かれている設問は2題しかなかったが, 難度的には問題なかったように思われる。

問1 ここは*in Ordnung*という熟語の解釈がポイントであるが, 頻度の高い重要単語であり, 多くの学習者においてもある程度なじみのある表現だと思われる。選択肢も日本語で書かれており, 仮に熟語の意味が分からなくとも前後の文脈からも推測可能な良問である。

問2 複数あるチケットの中から3人が購入しようとするものを問う問題である。

Einzelkarte/GruppenkarteとTierpark/Aquarium/Kombikarteの組合せを問う問題であり、中盤の3人のやり取りを丁寧に読むことが求められる。

問3 動物園の案内図と本文を照らし合わせながら時系列を正確に把握する問題だが、Tiere aus der Savanneについてはerst am Nachmittagを読み取ればよく、会話文中のVögelが理解できればFlamingos, Pelikane und Eulenにたどり着くことができる。本文と案内図を組み合わせた良問と言える。

問4 直前のFumiのwie natürlich die Tiere hier leben, 及び直後のEmiliaのHier ist alles für die Tiere gemachtという2つの発言から推測すると、正解が導き出せる。

問5 こちらも前後の文脈から正解である①のAch, ehrlich?にたどり着く。ただし、ここでは同じ意味を表すwirklichの方がより一般的で解釈しやすいかもしれない。

問6 問3同様にイラストを使って下線部を解釈する問題。Eismeer, Wasserturm, Brunnenなど、恐らく学習者には余なじみのない単語かもしれないが、それぞれイラストで明示されているため単語の意味は容易に把握できる。ポイントはBrunnenの位置, PumpeとSonnenenergieの有無であるが、これも丁寧に読みイラストと照らし合わせれば正解できるだろう。問3と同様にイラストが併用されているが、難度も高過ぎず、良問である。

問7 昨年に比べて会話全体の内容に合うものを2つ選択する形式に変更となったが、一連の会話を適切に理解すれば、正解が②と⑤であることが比較的容易に導き出せる。

第5問 設問数(6)、配点(30)は昨年から変わらない。頁数は昨年より1頁増えている(頁数(5))。テキストは夏休みを迎えるJan, HannaとLukasがギムナジウム卒業後に何をしたいのか、アンケート調査の結果を見ながら話し合う場面を扱っている。会話ではまだ分からないという考えから、進学や海外滞在が候補として挙げられており、ドイツ語圏における実生活を意識している点は昨年と同様である。昨年はインターネット広告が会話の中に含まれていた点と異なり、今年は会話とアンケート調査の結果のみという、よりシンプルな構成である。会話テキストは41行、約340語、アンケート調査の結果は1種類で約20語の合計約360語であり、テキストの総語数は、約320語であった昨年より増加している。問題としては、日常的な表現の理解及び会話の内容を正確に把握する能力を試すものである。ただし、そのためにはドイツ語圏におけるギムナジウム卒業後の状況を知る必要があり、その点でやや難度は高いかもしれない。

問1 Janの発言内容を正確に理解できているかを測る問題である。et. hinter sich habenが①Die Schulzeit ist zu Endeに相当することが分かるかが鍵となる良問である。

問2 下線部③のAuszeitについて、Hannaが意図していることを理解できているかを問うている。Auszeitを知らなくても、①, ②, ④の選択肢における内容が会話にないことに気付くことができれば解ける問題である。

問3 図で示されているアンケート調査の結果と問題における割合に関する表現の理解が必要となる。思考力を問う良問である。

問4 下線部⑤以降の会話内容を正確に理解する必要がある。選択肢の絵も分かりやすく描写されている。

問5 会話テキストの内容を正確に理解している必要がある。冒頭にJanが卒業後に何をすれば良いかまだ分からないと発言していたことを理解した上で、36の後に出てくるJanの発言内容も分かるかが鍵となる良問である。Au-pairの意味が分からなくても解ける問題ではあるが、Abiturと同様に補足としてAu-pairの意味を示しても良かったかもしれない。

問6 会話テキストの内容を正確に理解している必要がある。Lukasが会話の後半でAu-pairと

して働けばTaschengeldを得ることもできると発言しているが、報酬を得ることは望んでいないこと、会話の冒頭で進学したいと発言していることを理解できているかが鍵となる。良く練られた問題である。

第6問 設問数(5)、配点(30)は前年度と同じだが、分量はやや少なめで一昨年並みとなっている。テキストは、ペーター・ビクセルの『記憶マニアの男』を元にした読み物で、昨年の留学体験レポートとは異なり、一昨年までの文学作品に戻ったと言える。「記憶することにあるこだわりを持つ」やや風変わりな男の物語だが、話の展開は予想がついて捉えやすい。また受験者にとって身近な鉄道駅が舞台となっており、Zug, fahren, Treppeなど日常的に用いる平易な語彙が多く用いられている。内容の理解力とあわせて、男の心情を読み取る力が試される設問となっており、学習者に様々なテキストに触れてほしいという出題者の意図が読み取れる。

問1 6つの文章を話の順に並べ替える問題で、テキストの流れを把握する力が問われている。各選択肢にはテキストの表現がほぼそのまま使われており、丁寧に読めば正答にたどり着くことができる。

問2 男が駅にいながらも決して電車には乗らない理由を、4つの選択肢から選択する。出題部分の直後に解答のヒントがあるが、男のこだわりに基づくやや突飛な主張で、難度が高い。しかしながら、4つの選択肢に迷う要素は少なく、男が記憶することにこだわりをもっていることから判断すれば、テキストの細部までは理解が及ばなくとも正答を導くことができるだろう。

問3 男の発言からその心情を推測する。話の展開に加え、発言の直前にあるvor Freudeに注目すれば特に問題なく正答を選べるだろう。

問4 話の核心である男のこだわりについて、4つの選択肢から不適切なものを選ぶ。テキスト全般を正確に理解していることが求められる。④が正答だということは推測できるが、③「他の人がすぐには答えられないことを記憶する」が男のこだわりの1つであると言えるかどうかはやや違和感が残る。登場人物の理解を問う良問だが、選択肢に関して、受験者が本文から明確に判断できるような表現であれば、なお良かったのではないかな。

問5 テキストの内容理解を問う問題である。正答となる2つの選択肢は問1の選択肢と重複している感があり、比較的容易ではあるものの、選択肢に工夫が必要かもしれない。

第7問 設問数(7)、頁数(4)、配点(35)はいずれも昨年と同様だが、2頁目がイラストだけであるため、実際には3頁に近い。作問は、ある新聞に掲載されたミツバチを守る活動をしている少年についての記事を元に構成されている。ドイツに500種類以上が生息しているミツバチの中で絶滅の危機にひんしている種もあることや、その地域の花(花粉)とミツバチの組合せを守ることで生態系が保たれることなど、読むことで知れる情報も多く、読み物としても興味深い。befreien(問1)はやや難語であるが、基礎動詞の語幹がfreiであることに気付けば、「自由(にする)」という意味は想像できる。なお、後述するが、添えられているイラストが必要だったかは評価が分かれるところであろう。

問1 ①の正誤判断のためにはテキスト第1段落の内容を読み取る必要があり、加えて、③の正誤判断の鍵となる文が最終段落に書かれているため、テキスト全体について問う仕掛けとなっており、最初にテキストの大意を把握させるねらいのある良問である。なお、テキスト(第1段落)にあるinsektenfreundlichと、①(正答)にあるbienenfreundlichが近似の内容を指していることに気付く必要があり、やや難度は高い。

問2 少年が工夫したカプセルの特徴について答える問題である。右(2つ目)のイラストでカプセルの中身を(チューインガムから)花の種子に入れ替えていることを図も用いて説明

している。イラストが難語の理解の助けとなることは評価できるが、この問題のように（イラストが）解答に直接結び付くような問いは避けるなどの工夫が必要だろう。また、後続する問4の出題文中で“in den Automaten nur Samen…”と書かれているため、このカプセル自販機が種子を販売していることが出題文の一部で明らかになっていることで、正解を導きやすくなっている。

問3 第2段落の内容に合致する選択肢を選ぶ問題である。内容理解を問うのに適切な問いであると評価できる。

問4 第3段落と第4段落にまたがる部分の内容に合致する選択肢を選ぶ問題である。問いのねらいも明確で、難度も適切である。ただし、この問4の出題文で記されていることが、問2（前述）と問7（後述）を解答するヒントになってしまっていることが気になる。

問5 本文や選択肢を慎重に読めば正答にたどり着くことができる、適切な問いである。

問6 テキスト全体の理解度を問う意味で良問である。②、③、④が明らかにテキストの内容と合致しないため、①が正答であるとたどり着ける。

問7 文章内容に合うタイトルを選ばせることで、テキストの大意の把握を試すという意味で、出題のねらいも明確であり、良問であると言える。なお、問4のところで指摘したとおり、問4で「カプセルで売られているのがチューインガムではないこと」は、明らかではある。①を除く、②、③、④は正誤の判断もつきやすく、難度も適切であると評価できる。

### 3 総評・まとめ

今年度の共通テスト「ドイツ語」は、出題形式や配点が昨年度とほぼ同じであった。平均点は昨年度よりも上昇し、受験者には取り組みやすく、安定的な出題となっている。テキストの語彙数や分量に関しても、問題ごとの増減はあるものの、全体的に昨年度と同様の分量を保っている。昨年度に比べて難語がやや増加したものの、そのために受験者が全体的な文意を取るための負担が増えたという印象はない。テーマに関しては、特に大問4の友達同士での動物園の見学、大問5の高等学校卒業後の進路などは高校生や大学生に身近な題材であり、若者の実生活に即したドイツ語を中心に出题されている。さらに、物語や新聞記事などを出典としたテキストが出题されていることから、受験者は様々な文体の文章を読んでいることが推奨され、日頃のドイツ語学習の成果を問う問題であると評価できる。

外国語で書かれたテキストにおいては「～すべし」「～してはならない」「AならばBだ」「私は～したくない」というような主張・論理構造が顕示的であり、日本語のテキストのような「ハイコンテキスト」（行間を読ませる）にはなっていない。日本語とは違うスタイルで書かれたテキストを読むことで幅広い思考を<sup>かんよう</sup>涵養することができる。特にドイツ語はそのような論理構造が明確な言語である。今後も英語に偏りすぎない外国語教育が展開されるためにも、共通テストにおける「ドイツ語」など諸外国語の果たす役割は大きいと思われる。